

計画はどう進むか

計画は「つくって終わり」ではありません。毎年、点検して改善します

環境基本計画は、実行して、確かめて、改善することで効果を発揮します。計画では、PDCA サイクルの考え方にに基づき、指標や施策の推進状況を定期的に確認・評価し、関係する会議体の意見や

助言を取り入れながら、年度ごとに環境白書として公表していきます。市民・市民団体・事業者からの意見や、社会情勢の変化も考慮し、取組の改善につなげます。

今日からできること

今日からできる「関わり方」

環境の取組は、「正しいこと」を一気にやるよりも、続けられる形で関わるのが一番大切です。あなたの暮らしに合う形で、無理なく始められる入口を用意しました。ぜひ、できそうなものを選んでみてください。

①「知る」：市報・環境白書で、進み具合をチェックする

情報があるだけで、行動を始めやすくなります。計画の進捗は、環境白書などで確認できます。「今、何が進んでいるか」を知ることは、参加の第一歩です。

③「参加する」：短時間・近所・見学からでOK

清掃・美化活動、自然観察、講座やイベント。参加の形は様々です。「短時間だけ」「家族と一緒に」「見学だけ」でも構いません。参加は次の行動につながります。

②「選ぶ」：家計や暮らしに合う行動を一つ決める

省エネ、マイボトル、食品ロス削減、緑を増やす工夫。これまでのニュースレターでご紹介した行動の中から、無理のないもの一つ決めて続けてみてください。続けることが、いちばん大切です。

④「伝える」：意見・提案で計画を育てる

計画は、意見が入るほど良くなります。「こんな場所でやってほしい」「こういう時間帯が参加しやすい」「この情報が欲しい」。いろいろな意見が、計画や取組を良くしていきます。

【最後に】

水と緑、エネルギー、ごみ、空気や水の安心、これらすべてが日々の暮らしの中にあります。

この計画は、「ともに守り、ともに育む」という言葉どおり、みんなで作る計画です。あなたの一歩が、まちの未来につながります。まずはできる形で、行動していきましょう。

全編をお読みいただき、ありがとうございました。調布市の水と緑、快適な暮らし、ゼロカーボン、資源循環は、どれも「日々の選択」と「つながり」で前に進みます。まずは、できそうなことを一つ。次は、あなたの番です。

調布市環境基本計画についての詳しいことは、こちらの二次元コードからご覧ください



調布市環境基本計画 ニュースレター

⑤
市民協働編

調布市環境部環境政策課 作成

目次	[トピックス]	つながる力がまちを変える	p.1
	[重点プロジェクト]	つながる力がまちを変える 市民協働プロジェクト	p.2
	[市民の意見の反映]	市民の意見が示したのは「参加したい。でも条件がある」という現実	p.3
	[計画はどう進む?]	計画は「つくって終わり」ではありません。毎年点検して改善します	p.4
	[今日からできること]	今日からできる「関わり方」	p.4

トピックス

つながる力がまちを変える

参加しやすさから始めます。

環境基本計画の取り組むべき分野である、水と緑(グリーンインフラ)、生活環境、ゼロカーボン、資源循環、どのテーマも大切ですが、実は共通していることがあります。それは、行政だけでは実現できないということです。暮らしの工夫、地域の活動、事業者の取組、学校での学び。多様な主体がそれぞれの立場で動き、つながったときに、計画は実行力を持ちます。

今回の計画では、その「つながり」を重点プロジェクトの一つに据え、「つながる力がまちを変える 市民協働プロジェクト」としてしています。計画づくりから実施・評価まで市民参加を進める枠組みを軸に、幅広い世代の市民、事業者、教育機関、行政などが連携し、学びと実践を循環させる仕組みをつくるのが柱です。活動している団体のネットワークも生かしながら、市民協働をより一層深め、市民一人ひとりが主体的に環境活動に取り組むまちを目指します。

市民意識調査では、「参加したことはないが、機会があれば参加したい」という意見が最も多くありました。一方で、「時間がない」「一人では参加しにくい」「情報が無い」など、参加しにくさの理由も見えています。だからこそ、参加することを頑張るという話ではなく、参加の入口を気軽に選ぶという考え方が大切です。

環境の取組は「全員が同じことをする」必要はありません。できる人が、できるときに、できる形で関わる。その輪が広がれば、調布市の環境はもっと良くなります。



学びと参加・協働のイメージ

重点プロジェクト

つながる力がまちを変える 市民協働プロジェクト

この重点プロジェクトは、環境の取組を点で終わらせず、まち全体の流れにしていくための仕組みです。計画では、幅広い主体が連携し、学びと実践を循環させることを重視しています。単発のイベント参加で終わるのではなく、参加の経験が次の行動につながり、環境が良くなる。そんな循環ができると、調布市の環境はもっと良くなります。

目標は「つながり」を増やすことです

プロジェクトの目標は大きく三つです。

一つ目は、市民・事業者・市民団体・学校・関係機関・市が、学びと実践を通じてつながり、地域ぐるみで環境課題の解決に取り組む土台をつくることです。

二つ目は、次世代を担う子どもたちへの啓発を進め、幅広い世代による参画を目指すことです。子どもがきっかけで家庭の行動が変わることも少なくありません。世代を超えて広がる取組は強い力になります。

三つ目は、多様な主体のアイデアを共有し、連携を深めながら参加と協働の輪を広げ、相乗効果を生み出すことです。横につながることで、できることの幅が一気に広がります。

環境人材の育成と、情報発信

計画では、施策として「環境人材の育成」を位置付けています。ポイントは、学びやすく、動きやすくすることです。

まず、環境情報を分かりやすく届け、市民の主体的な行動につなげます。市報、環境白書、ホームページ、SNS など多様な媒体を活用し、それぞれの特性を生かして発信します。

さらに、子ども・若者が楽しく学べる啓発事業やイベントなどを通じて、若い世代の関心を高め、将来の担い手育成につなげます。環境の学びは、知識だけでなく「やってみた」という経験が大切です。体験は、行動を変える近道になります。

このプロジェクトは、他の4分野の土台となるものです。水と緑、生活環境、ゼロカーボン、資源循環。どの分野も担い手が増えるほど、取組の成果が確実に積み上がります。



計画本編 p.116に掲載しています

市民の意見の反映

市民の意見が示したのは 「参加したい。でも条件がある」という現実

市民意識調査では、「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」という意見が最も多くありました。つまり、潜在的な意欲は高いということです。一方で、参加しない理由として「参加する時間がない」「一人では参加しにくい」「活動に関する情報がない」「興味のある活動がない」などが挙げられています。

ここから見える課題は、意欲の不足ではなく、参加までの道のりです。入口が遠い、分かりにくい。だから一歩目が踏み出せない。計画では、このギャップを埋めることも重視しています。

参加しやすい条件は、はっきりしています

「どのような機会があれば参加したいか」という問いでは、

- ・身近な場所（小学校や公民館など）で開催される活動
- ・時間帯や参加回数が選べる活動

が上位に挙がっています。つまり、参加の鍵は「近さ」と「選べること」です。

この結果を受けて、計画では幅広い主体が連携し、学びと実践を循環させる仕組みをつくるとしています。具体的には、地域施設や環境学習の場を活用し、短時間でも参加できる活動、家族で参加しやすいイベント、初めてでも入りやすい美化・清掃活動など、入口を増やしていく考え方です。

すでに参加している人の定番は清掃・美化

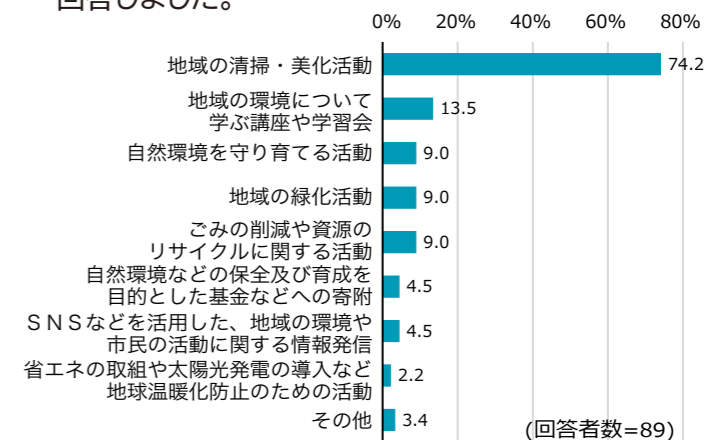
実際に参加した内容としては「地域の清掃・美化活動」が突出して高くなっています。ここには理由があります。目的が分かりやすく、短時間でも達成感があり、世代を問わず参加できるからです。そして、拾って終わりではなく、「なぜここに多いのか」「どう減らすか」という気づきが、生活環境の改善にもつながっていきます。

情報の入口としては、市報が主要な情報源になっています。だからこそ、市報などの確実な媒体で「参加の入口」をていねいに示し、必要な人に届く形を整えることが重要になります。

[市民意識調査の結果]

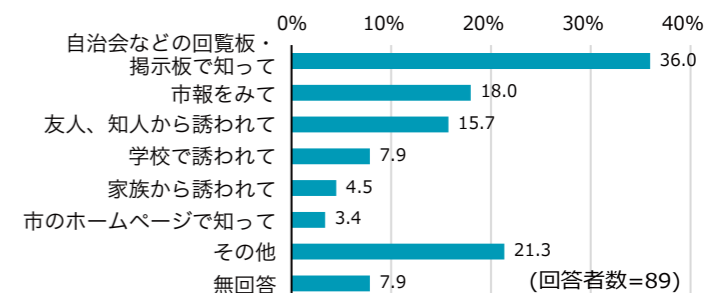
■参加したことがある環境の活動

回答者の7割以上が「地域の清掃・美化活動」と回答しました。



■活動への参加のきっかけ

「自治会などの回覧板・掲示版」が最も多く、「市報を見て」、「友人、知人から誘われて」の順でした。



■参加したいと思える活動

「身近な場所で開催される活動」、「時間帯や参加回数が選べる活動」が多い結果でした。

